

タウンミーティング 平成30年10月16日（火）開催 《みずほ台コミセン》

地域別テーマ：空き家対策について
：地域の公園整備について

①

Q 空家対策の関連で、民泊についてはどのように考えているのか。東京オリンピックに向け、セルビア共和国のホストタウンを目指すのなら、活用してもよいのでは。

A（市長）

民泊については、地域の中に不特定多数の方が入り込むことを考えると、観光地とは言えない富士見市が実施することは難しいと考えています。一方で、駅の周辺などに限定して実施するという考え方もあろうかと思えます。

現在、さいたま市にあるホテルを宿泊先候補として調整しています。ホストタウンが実現した際は、選手の家族をホームステイで受け入れるという方法も考えられるかもしれません。

②

Q 空家も修繕して使えるAランクやBランクの物件が多い。この地域は学生が多く住んでいるので下宿などに活用できないか。新しい収入源としても期待できるし、色々とメリットはあると思うが。

A（市長）

空家の利活用については推進していきたいと考えております。一方で所有者の特定が困難な場合が多いなどの課題もありますので、学生や若い人へのアプローチと合わせて、A・Bランクの物件が活用できる方法等を考えたいと思えます。

③

Q 富士見市はコンパクトシティのまちづくりを進める計画はあるのか。

A（市長）

コンパクトシティの計画はありませんが、富士見市は元々コンパクトなまちづくりが形成されているとも言えます。富士見市の特徴として、住宅が建てられる市街化区域と市街化調整区域の割合が4対6くらいとなっており、その中でも、東武東上線の3つの駅周辺に住宅が集まっています。

④

Q 大学がある自治体は、若者があふれており活気がある。富士見市は大学を誘致する計画はないのか。

A（市長）

水谷柳瀬川ゾーンに教育機関を誘致したいと考えており、関係する約500法人向けにアンケートをお願いしています。その中でもいくつか反応がよいものもありましたので、現在意向などを調査しているところです。

⑤

Q 南通公園は以前バラ公園と呼ばれていたが、今ではバラは咲いていない。何故咲いていないのかと言うと、公園内の木が成長し過ぎて日陰となってしまうためである。大木を伐採しないと公園の目的が達成されない。

また、若い世代の人が引っ越してきており、子育て中の人もいる。育ち過ぎた街路樹の根っこにつまずいて怪我でもして市が訴えられたら大変である。そのようなことになる前に、計画を立てて街路樹をしっかりと管理してほしい。

A（市長）

針ヶ谷地区とみずほ台地区は区画整理が完了してから相当の年数が経過しております。当初想定していた公園の目的や対象も変化しているというご意見をいただいておりますので、財政的な面なども考慮しながらどのような方法がとれるのか考えていきたいと思っております。

⑥

Q 針ヶ谷中央公園は、昔は盆踊りを開催するなど活気があった。今は噴水も故障しており寂しい印象となっているが、公園の整備についての具体的な計画はあるのか。

また、柳瀬川は、新座市や志木市に面している河原や土手を歩いて散策できるようになっているが、富士見市側は整備されていないので、自治体同士連携して遊歩道のようなものを整備してほしい。

A（市長）

老朽化した公園の対応については、現状把握をしたうえで市民の皆様と協議させていただきたいと考えています。今後策定する公園に関する計画の中で、整備や改修にどう取り組んでいくか整理していきます。

柳瀬川については、埼玉県の治水対策事業として、富士見橋下流方向左岸側に調節池を設置する予定となっています。現在のところ、約4ヘクタールという面積で、水門は設置せずに自然に流入流出する方式になるという情報は聞いておりますが、容量や工事費などはまだわかりません。川沿いを散歩できるような整備についても検討して、県に要望していきます。

⑦

Q 災害発生時において、針ヶ谷コミュニティセンターで具体的にどのような対応がされるのかがわからない。責任ある者が配置されているのか、この施設には何人収容できるのか、また針ヶ谷小学校ではどのような対応があるのかなど、日常的に把握しておく必要があるのではないかと。職員体制や備蓄状況など、住民もそのような情報を知っていれば、自ら動くこともできる。

A (市長)

針ヶ谷コミュニティセンターは、通常時は指定管理によりシルバー人材センターの職員により管理運営を行う施設となっています。災害時における対応など、ご指摘いただいた内容は、地域防災計画に基づいて別途対応することとなります。なお、針ヶ谷小学校は針ヶ谷地区の避難場所となり、地域対策本部の職員が対応することとなります。

来年度は、市全体の総合防災訓練を実施する予定ですので、様々な訓練と併せ避難所設営や宿泊訓練などを通じて、地域で避難所をどのように運営するのかを考える機会になるかと思えます。

⑧

Q 富士見市の明確なビジョンを聞くことができ良かった。これからは高額所得者に選んで住んでもらえるような取組みが必要である。例えば、学力の向上策として教育特区のような形で、公立の中高一貫校を設立するなど、先進的な仕掛けも考えてもらいたい。

A (市長)

シティプロモーションを戦略的に取り組んでいくという動きがあり、現在、有識者の先生等を含めたメンバーで会議を開催しております。

ご提案いただいた、教育の充実を富士見市の強みとするのも一つの考え方かと思えます。多くの人に富士見市の教育は良いと言ってもらえるようになると、子育て世代の皆様にも住み続けていただけるのではないのでしょうか。中高一貫校の設立については、財政面も含めて難しいと考えております。水谷柳瀬川ゾーンに大学などの教育機関誘致を進めていく中で、何か連携ができないか検討したいと考えております。

⑨

Q 大阪北部地震でブロック塀が倒壊したことを受けて、富士見市でも点検をしたということは理解したが、40年前くらいに建ったアパートなどのブロック塀は控え壁が無いものなどもある。撤去費用の補助などは無いのか。

A（建設部長）

公共施設のブロック塀については、全て調査し、対応済みです。民間のものについては、小学校の通学路を対象に調査を行い、該当する所有者に対して連絡をしています。

⑩

Q 「子育てするなら富士見市で」の政策が継続されているが、風疹対策として、予防注射に対する助成等は考えているのか。

A（市長）

現在のところ対応については未定ですが、現状を把握したうえで、担当となる健康増進センターに、医師会と協議するように指示をしております。

⑪

Q 各種計画を策定する際にパブリックコメントを実施しているが、意見を出しても個別の回答がない。

A（市長）

パブリックコメントについては、ご意見に対して個別に回答はしておりませんが、ホームページにて回答を掲載していますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

⑫

Q ふるさと納税を実施している自治体は、寄附をもらったならこんな事業に充当するといった情報を示してほしい。富士見市では寄附を充当する具体的な事業や目標額等を設定しているのか。

A（市長）

富士見市では「まちづくり寄附」という形で寄附の受け入れを行っています。個別具体的な事業や目標額は明示していませんが、子どもを育むまちづくりなど大きく5つの事業から選択することができるようにしています。